ＩＧＳ　ＮＥＷＳ　抄訳

ＶＯＬ．１３．　ＮＯ．３　ＮＯＶ．　１９９７

ＩＧＳ日本支部　編集委員　大 倉 史 郎

第６回ＩＧＳ大会の日程について(p1～2)

３月25日（水）－サッカーゲーム、カーナー博士によるジルーレクチャー、テクニカルセッション、19：30からレセプション
３月26日（木）－ロウ教授の基調講演、テクニカルセッション、16：00から展示会がスタート
３月27日（金）－龍岡教授の基調講演　ワークショップ、展示会、ポスターセッション
３月28日（土）－マックゴウン教授の基調講演、テクニカルセッション、展示会、閉会レセプション
３月29日（日）－現場見学会、ゴルフ

同じ期間中にＩＧＳ関係の会合が次の通り計画されている。

３月23日（月）	09：00～17：00	ＩＧＳ役員会
３月24日（火）	09：00～17：00	ＩＧＳ理事会
３月27日（金）	15：30～18：00	ＩＧＳ総会
３月27日（金）	18：00～19：00	ＩＧＳ理事会
３月27日（金）	19：00～21：00	法人会員レセプション
３月28日（土）	12：00～13：00	支部長昼食会
３月29日（日）	07：00～08：00	ＩＧＳ役員会
３月29日（日）	08：00～10：00	ＩＧＳ理事会

ＩＧＳ通常総会の招集(P3)

前述の如く、３月27日（金）15：30からＩＧＳ表彰のセレモニーにつづいて、ＩＧＳ通常総会が開催される。主な議題は次の通りである。

１．会長、事務局長、財務担当役員の報告と承認
２．活動計画の承認
３．会長、副会長の選出
４．理事選挙（郵便投票）結果の発表
５．第８回ＩＧＳ大会（2006）と次回総会の日程、開催場所の選定

学生メンバーについて(p4)

ＩＧＳでは、学生メンバーの入会を奨励するため、国別の支部の中で、ＩＧＳメンバーである指導教官の下で学生をグループ化することをすすめている。指導教官の主たる任務は会費の徴集と名簿の整備である。これによって学生メンバーは各種の恩典を受けられる。国別の支部があるところでは、学生会費は支部でキープして使用できる。（スティーブンソン事務局長）

Sardinia`97 におけるトピックス(P3～5)

昨年10月開催された第６回ランドフィルシンポジウムーSardinia`97 のワークショップの中から次の２つのワークショップがロウ教授によって紹介されている。

ランドフィルのカバーについてー現場の気候や廃棄物の種類に応じて柔軟に対応することができる設計基準、クレイまたはＧＣＬが乾燥や木の根の成長でひび割れをおこす問題、水やガスがたまり圧力が増加する問題などが論議された。

ランドフィルの排水についてー排水材の種類や使い方、目詰まりの問題を中心に議論がすすめられた。

インドにおけるジオシンセティックス(p6～7)

インドはＩＧＳでは５番目に結成された支部で、結成以来ジオシンセティックスに関する知識や情報の普及に大きく貢献している。特に近年、ジオシンセティックスアジア会議`97を開催し、アジア活動委員会の結成にも主導的な役割を果たした。また、インドでは天然繊維製のものも含めあらゆる種類のジオシンセティックスが生産されている。（スティーブンソン事務局長）

インド支部レポート(p7)

ニュースブレティンの発行、アジア活動委員会の結成を行ってきた。今後の活動としては、文献目録、ジオテキスタイルダイレクトリー、ジオシンセティックス環境工学の出版を予定している購読可能なインド支部出版物が紹介されている。

Geosynthetics`99論文募集(p7)

概要提出は昨年12月で締め切られたが、第一次論文提出期限は本年８月７日である。

初めてのジオグリッド補強土（ＧＲＳ）橋脚による鉄道橋(p8～9)

初めての試みとして、ＧＲＳの橋脚、橋台に支持された長さ16.5mの鉄道橋が２本、福岡市内に建設され、1997年８月３日から営業運転に使用されている。２～４輌編成の列車（１輌当たり重量30～40トン）が１日に125本通過しているが、列車の荷重による沈下は、橋脚で0.02㎜橋台で0.52㎜である。この建設目的はコスト／パーフォーマンスが従来タイプに比して良好なことによるものである。（龍岡教授他）

南米におけるジオフォームの活用(p9～10)

チリー南部のヴァルディミアで、南米で初めてと思われるジオフォームによる橋台の補強工事が1997年８月に実施された。この地域は、1960年の大地震の中心地で、軟弱地盤地帯としても有名なところである。町と空港を結ぶ205号線のカユンプ川にかかる橋の橋台の補強にＥＰＳブロックによる補強土工法が採用され、成功を収めた。土の100分の１という軽量で、施工が非常に容易であったことが特筆される。ＥＰＳブロックをジオテキスタイルで包んだものもここで使用された。近年、チリの道路はエルニーニョによる大雨のため損壊がひどく、その補修にこれからＥＰＳブロックが多く使われるようになるものと予想される。

Sardinia`97 のライナーテスティングワークショップ(p10)

有機物汚染がジオメンブレンの膜を通して浸透する問題、その対策としてクレイまたはＧＣＬの役割、ジオメンブレンの突き破りと保護レイヤーの効果、ジオメンブレンの経時変化など、広範囲なトピックスが討議され、結論として、もっと長期な観測の必要性が強調された。（カズフィ理事、ロウ前会長）

河川、海洋でのジオシンセティックスに関する会議(p10)

ＰＩＡＮＣ（Permanent International Association of Navigation Congresses）の主催により昨年10月７日、フランスのレイムで開催され、主として欧州からの参加者が集まった。論文集は下記のところから入手可能である。

PIANC Genaral Secretariat
Graaf de Ferraris, 11eme etage, Box3,
Bld. Emile Jacqmain 156, B-1000 Brussels,
Belgium (Fax:+32 2 553 71 55)　　（ジョーンズ会長）

法人会員紹介(p11～12)

・E&S Engineering Co.,Ltd （韓国）

補強土工を得意とする会社で、1986年以来の補強土擁壁の施工壁面積は80万㎡に達している。1994年にアメリカのPresto Product社からGeowebを導入し、韓国内で独自の設計、施工を行っている。代表的なものは、韓国東海岸のフェニックスパークリゾートの開発に当たって、この方式で施工した急勾配擁壁（長さ200m, 高さ6-14m ）である。

・Geofelt G.m.b.H （オーストリア）

1994年に設立された比較的新しい会社であるが、在来タイプのジオテキスタイルからジオメンブレンに至るまで、殆どの種類のジオシンセティックスを手がけている。これらの製品は提携メーカーにより、ＩＳＯ9000にもとづいて生産されている。オーストリアのリンツに本社があり、別にドイツ向けのオフィスとシンガポールに合弁会社がある。

Geosynthetics International(p13)

1998年はじめ頃に地震工学におけるジオシンセティックスの特集号の出版を予定している。年間６回の発行で、ＩＧＳ個人会員には、ＵＳ２２５ドルが１２９ドルに割引きされる。

Geotextiles & Geomembranes(p13～14)

この程ロウ教授（ＩＧＳ前会長）が編集長に就任した。今まで通りＩＧＳ個人会員には80％割引の購読料が適用される。又、会員は本誌を論文発表の場として利用できる。

予定されている国際会議など

・6th International Conference on Geosynthetics	Atlanta,Georgia,USA 25-29 Mar 1998
・Geosynthetics`99	Boston,MA,USA,28-30 Apr 1999